

地域日本語教育の“あるある”シミュレーションゲーム



ア ナ ド ウ
『ANADO～あなたならどうする?～』



公益財団法人 北九州国際交流協会

©2013-2024 KITAKYUSHU INTERNATIONAL ASSOCIATION All Rights Reserved

はじめに (ANADO 作成チームより)

「ANADO をつくるのに、どのくらいの時間がかかりましたか?」「事例はどうやって集めたんですか?」と尋ねられることがあります。でも、いつも答えに迷います。というのは、実は、もともと私たちは「カードゲームを作ろう」と思って作成し始めたわけではないからです。そこで、この場をお借りして、ANADO が生まれた経緯についてお話させていただこうと思います。

北九州国際交流協会では、2009 年に地域日本語教育のコーディネーターを配置しました。市内 4 区の空白地域で地域住民のみなさんと一緒に日本語教室の立ち上げ準備を行ったり、日本語教室のボランティアさんなどのお話を伺ったりしながら、私たちコーディネーターは成長していきました。一方、ボランティアさんや学習者さんなどから相談を受けたり、私たち自身も行き詰ったりするにつれて、私たちコーディネーターは悩むことが多くなっていきました。「多文化共生の地域づくりのための日本語教育」という目的とは真逆に思える衝突・対立に葛藤する日々。次第にコーディネーターとして無力さを感じるようになっていきました。

そんな中、会議や研修などで各地の日本語教育担当者との出会い、全国に同じような課題や悩みを持っている方がいることを知りました。そして、胸の中にためていたもやもやを出し合い、共感し合い、いろいろな考えやアイデアを出し合っているうちに、いつの間にかみんなが楽しく前向きになっていることに気づきました。

ANADO (初版) が生まれた年は、神吉宇一先生にアドバイザーになっていただき「日本語教室を核とした共生の地域づくり検討事業 (CLAIR「多文化共生のまちづくり促進事業」)」を行っていました。そして、行政もボランティアも有識者も国際交流協会もコーディネーターも、みんなで一緒に話せる機会を持ちたいと考えていました。そのためには、肩書、年齢、日本語教育の経歴や資格の有無などにとらわれず、対等な立場で意見交換や情報共有が行えるように、そして小さな声や少数意見もしっかりと拾えるようにする工夫が必要でした。

解決したい課題はたくさんあります。そこで、まずはそれを言語化して書き出すことから始めました。全国に共通する課題として、架空のストーリーにしました。ストーリーがたまっていくと、それだけで議論ができそうです。しかし、自分たちがファシリテーターとなることをイメージすると、もう少し工夫が必要でした。そこで、二択の選択肢を作ってみました。A と B の誕生です。さらに、神吉先生に「おもしろいね」と言っていただいたことをきっかけに、カードに印刷してラミネートもして、カードゲーム化してみました。

こうして生まれたのが ANADO です。2021 年度に文化庁「地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業」を活用して大幅改訂した際に、全国のみなさんに知っていただくこととなり、カードの貸出やオンライン版ワークショップも行うようになりました。遠く離れた各地のコーディネーターのつながりが、ANADO を通して広がっていることを大変うれしく思います。かつて一緒に「あるある」と悩みを共有したコーディネーターのみなさま、ANADO を使った感想をお寄せくださったみなさま、そして ANADO に興味を持ってくださったすべてのみなさまに、ANADO 作成チームを代表して心より御礼申し上げます。

(公益財団法人北九州国際交流協会 総括コーディネーター 矢野 花織)

アナドゥ ANADOとは？

「ANADO」は、地域日本語教育の現場で起こりうる困難や葛藤などについて、他のプレイヤーと意見交換をしながら、課題解決のプロセスを体験することを目的としたシミュレーションゲームです。

ゲームは、中央に積まれた「質問カード」と、事前にプレイヤーに配られた「回答カード(A/B各1枚)」を用いて、3～6名で行います。「質問カード」の「あな(ANA)たならどう(DO)する？」の問いに対し、参加者が「回答カード」を一斉に出し、参加者同士が意見交換を行いながらゲームを進めていきます。

対 象

- ・地域日本語教室のボランティア・スタッフ
- ・行政や国際交流協会の地域日本語教育担当職員
- ・地域日本語教育コーディネーター・総括コーディネーター
- ・地域日本語教育に関わっている/関心のある方

目 的

1. 地域日本語教室やその関係者に起こりうる事例を通して、自分が関わっている教室や自分自身の言動を客観的にふりかえるきっかけとする。
2. 日本語教育の経験年数、資格の有無、立場、所属、価値観などにとらわれず、参加者同士で共感したり、意見を言ったりしやすい場をつくる。
3. 同じ課題でも、解決方法にひとつの正解があるわけではなく、環境や条件によって、それぞれ違った工夫や解決のしかたがあることに気づく。
4. 困難や葛藤などの課題に向き合い、他の参加者と解決方法を考えていくことによってよりよい地域日本語教育のかたちを発見する。

ゲームに使うもの



- ・ ANADO 「質問カード」
3～6名のグループに1セット

【ゲームに入っているもの】
事例付き質問カード 35枚
A・Bカード各6枚 解説書（本書）



- ・ ANADO 「回答カード」
プレイヤー1人に「A」「B」各1枚ずつ

ゲームの準備



山札：「質問カード」は、プレイヤーの中央に、書かれている文が見えないように重ねて置く。

手札：「回答カード」は、A/B各1枚ずつプレイヤーに配る。

1. グループが複数ある場合は、各グループに ANADO カードが1セットずつ必要です。
また、各グループをまとめる全体のファシリテーター役を置き、全体の進行のバランスやふりかえりを行うことをお勧めします。
2. 話し合いの効果およびゲーム性を高めるために、1つの質問に対し話し合いの時間は10分程度を想定しています。長くなる場合は、全体のファシリテーター役または、グループの中の親が「時間オーバー」の合図をして、次のゲームに移ってください。

始める前の注意

- ※プレイヤーは、必ず A か B どちらかの「回答カード」を出すこと
- ※話し合いの途中で、自分の「回答カード」を変えても OK
- ※できるだけみんなが発言できるように、協力すること
- ※人の意見を否定したり、批判したりしないこと
- ※ひとつの答え・結論を出そうとせず、楽しむこと

あそび方

1. 親を決めます。
2. 親は、1番上の「質問カード」を読み上げて、他のプレイヤーから見えるように置きます。
3. プレイヤーは（親も含めて）、質問の「あなたならどうする？」という問いの答えを考えて、「回答カード」（AまたはB）を手に取ります。
※自分の答えがA/B いずれでもない場合でも、「まずAを試みるが、ダメだったらBにかえる」「〇〇という条件だったらA」など、必ずどちらかを選んでください。
4. 親は、全員（親自身も含めて）が「回答カード」を手を持ったことを確認し、「せーの」と合図をします。
5. プレイヤーは、一斉に「回答カード」（AまたはB）を見せます。
6. 「なぜA/Bを選んだのか」「なぜそのように考えたのか」など、プレイヤー同士で自由に話し合います。親は、話し合いがうまく進むように、進行役をします。
7. 話し合いの中で、気持ちが変わったプレイヤーは、手持ちの「回答カード」（AまたはB）を変えることもできます。時間があれば「A/B以外にどんな方法があるか」などを話します。
8. 親は、意見をまとめる必要はありません。プレイヤー全員が発言したことを確認したら、左隣の人に親を交代します。
9. 次の「質問カード」で2～8を繰り返します。



テーマ一覧

1	新人ボランティア	元日本語教師のあなた。夫の転勤のため、10年勤めた日本語学校を辞めてしまったので、日本語教室でボランティアを始めることにしました。しばらくベテランのボランティア秋田さんの授業を見学するように言われたのですが…
2	教室代表者	日本語教師養成講座の同級生8人と教室を立ち上げたあなた。3年後、当時のメンバーは、家庭の都合などで活動を続けられなくなってしまいました。今は、学生ボランティアがたくさんいるので活動はできるのですが、学生は…
3	外国人学習者	JLPTのN1に合格しているあなた。文法は得意なのですが、人見知りなこともあって会話が非常に苦手です。そのコンプレックスを克服したいと思い、日本語教室へ参加することになりましたが…
4	県庁職員	地域支援課で働いているあなた。県内に外国人就労者が急増した地域があり、日本語教室をつくりたいという地域住民の支援をすることになりました。しかし住民から…
5	ボランティア	親子で参加できる日本語教室にボランティアとして参加しているあなた。ボランティアは、だれも日本語教育を勉強したことはないのですが、みんなで子育ての話をしたり、子ども同士を遊ばせているうちに学習者は少しずつ…
6	ボランティア	語学が堪能なあなた。ボランティアとして活動している日本語教室で、学習者のマリクさんから「保証人になってほしい」と言われて困っています。あなたは、たとえ自分の親友でも保証人にはならないと決めているので…
7	学習者の家族	留学先で出会った彼女と結婚したばかりのあなた。妻は来日前に、家庭教師から日本語を習っていたので、日本でもそのテキストの続きをしたいと、地域の日本語教室に行きました。すると…
8	行政職員	市の公共施設の責任者を務めているあなた。「日本語教室のチラシを棚においてほしい」と頼まれた窓口職員から相談を受けました。施設では、新型コロナウイルス感染拡大以降、スペースを確保するためにチラシ棚の数を…
9	国際交流協会職員	今年初めて日本語ボランティア養成講座の担当になったあなた。養成講座の最終日に、意欲的な受講者たちから「日本語教室を作りたいので協力してほしい」と相談されました。養成講座の成果があったと喜んでいたのですが…
10	ボランティア	日本語教室で創立当時からボランティアをしているあなた。開設当時は、学習者のほとんどが留学生や外国出身の主婦で、日本語でおしゃべりをしたり、パーティーをしたりするのが日本語教室の活動の中心でした。ところが…
11	ボランティア	国際交流協会に日本語ボランティアとして登録しているあなた。活動日に、学習者のハンさんから「先生、この手紙、何が書いてありますか」と1通の封筒を渡されました。読むと、差出人は裁判所で…
12	外国人学習者	来日して15年目になるあなた。今では日本語に困ることはなくなり、また、時間にも余裕ができたので、近所の日本語教室にボランティアとして参加したいと思いました。見学に行ったところ、その教室では、マンツーマンで…
13	教室代表者	日本語教室の代表をしているあなた。先日、市内の企業から連絡があり、「うちの会社の外国人社員に日本語を教えてくれる方を探しています。時間は始業前の朝6時半から8時まで。教室のボランティアさんを紹介して…
14	教室代表者	今年から日本語教室の代表を務めることになったあなた。メンバーはみんないい人ですが、なんだかまとまりに欠けています。メンバー同士の情報共有ができていないことが課題だと感じたあなたは…


15	教室代表者	日本語教室の代表者が引越すことになり、来年度から代表になる予定のあなた。会計、会場予約、連絡などの役割を引き受けてくれる人がいないため、毎年同じ人に負担がかかっています。そこで、あなたは・・・
16	ボランティア	夫の転勤のため海外で3年間生活した経験のあるあなた。海外ではたくさんの人にお世話になったので、今度は日本に住んでいる外国人の方のお手伝いをしたいと思い、日本語教室でボランティアを始めることに・・・
17	教室代表者	日本語教室で代表を務めているあなた。活動費は、会場費や教材代などで常に赤字です。ボランティアからの会費収入でこれまでなんとか続けてきましたが、学習者の参加費を上げるわけにもいかず、どうすればよいか悩んで・・・
18	国際交流協会 コーディネーター	国際交流協会で、日本語教室のボランティアと学習者の担当をしているあなた。ある日、学習者から、「日本語教室をやめたい」という電話がありました。通訳を介して事情を聴くと、「先週の日本語教室の時に・・・
19	ボランティア	2か月前に、日本語教室のボランティア活動を始めたあなた。ここに引っ越してくるまでは、他県で日本語教室のボランティアをしていたので、活動自体にはすぐに慣れましたが、この教室の代表者である吉田さんが・・・
20	外国人学習者	南米出身のあなた。来日前に、日本語の勉強はしたのですが、実際に日本人と会話をする機会がほとんどないので、近所の日本語教室に通い始めました。しかし、スペイン好きなボランティアの広田さんは、あなたにいつも・・・
21	外国人学習者	アルバイトをするために、丁寧な日本語が使えるようになりたいと思い、日本語教室に通い始めたあなた。その教室は、マンツーマンの対話形式で行われているのですが、ペアを組むボランティアが毎回違うため、いつも・・・
22	ボランティア	誰でも気軽に参加できる日本語教室を目指して活動しているあなた。学習者が、乳幼児を連れてきた場合は、手が空いているボランティアが託児をしています。しかし、ボランティアより学習者が多い日や、乳幼児の数が・・・
23	学生ボランティア	日本語教室でボランティアをしている大学生のあなた。あなた以外のボランティアはおじいちゃん・おばあちゃん世代の方で、あなたをととてもかわいがってくれています。学習者の多くは留学生や技能実習生で、目上の人に・・・
24	教室代表者	日本語教室で代表をして15年目のあなた。立ち上げ当初からずっと一緒に活動をしているボランティア仲間は、日本語教育の資格はありませんが、熱心なサポートが喜ばれて、学習者が毎年増える一方です。ところが・・・
25	市役所職員	市役所の地域振興課で勤務しているあなた。外国人住民の急増に伴い、この市で初めての日本語教室を開設することになりました。一緒に担当する係長は、仕事が早く、人脈もあってとても頼りにしているのですが・・・
26	ボランティア	日本語教室でボランティアをしているあなた。新型コロナウイルス感染拡大のため、日本語教室がこれまでのようにはできなくなりました。そこで、オンラインでの教室活動を提案したところ「パソコンもスマホも持ってない・・・
27	国際交流協会 コーディネーター	県の国際交流協会で日本語教育コーディネーターをしているあなた。大学の先生や、日本語ボランティア教室の代表者など、地域日本語教育関係者が集まって、県内の地域日本語教育の課題や今後の計画などについて・・・
28	教室代表者	今年から日本語教室の代表者になったあなた。最近学習者が急に増え、これまでのように1対1では対応できなくなってしまいました。そこで前代表のカズコさんに相談したところ・・・
29	市役所職員	多文化共生課で働くあなた。学習者が無理なく自分のペースで参加でき、国籍を問わず温かい交流の場となっている日本語教室を「市の財産」だと思ってきました。しかし、新しく来た野田課長から・・・

30	外国人学習者	JLPT N2 のあなた。文法や読解は得意ですが、日本語で話すのが苦手なので、近くの日本語教室に通うことにしました。初めに先生から「この教室は対話型なのでテキストは使いません」と説明があり・・・
31	国際交流協会職員	国際交流協会で働いているあなた。協会設立当初から「日本語教室あかさたな」と「日本語サロン・こんにちは」という2つの日本語教室に、会議室とロッカーを無料で貸しています。しかし、他の教室からは・・・
32	教室運営者	外国出身のベンと仲良くなったあなた。ベンは「あなたと話をする度に日本語が上手になる」と言ってくれます。あなたは日本語を教えたつもりはないのですが、実際にベンの日本語は上達しており、あなたはベンの知人たちから・・・
33	地域日本語教育コーディネーター	今年コーディネーターになったあなた。昨年の学会で、県のモデル教室「B1コース」の発表をしていたアドバイザーの黒川先生と先輩コーディネーターの吉野さんに憧れて、この仕事に就きました。しかし・・・
34	外国人学習者	技能実習生として来日して2年目のあなた。来日当初は社長に勧められた日本語教室に通っていたのですが、自転車で40分もかかる上に毎回とても緊張して疲れてしまうので、日本語の勉強はスマホのアプリや動画で・・・
35	地域日本語教育コーディネーター	外国につながる子どもの日本語学習支援について、日本語教室のボランティアから相談を受けることが多くなってきたあなた。コーディネーターとして、ボランティアに任せっきりになってしまっている現状を・・・

**あなたは
教室代表者**

あなたは
新人ボランティア

元日本語教師のあなた。夫の転勤のため、10年勤めた日本語学校を辞めてしまったので、日本語教室でボランティアを始めることにしました。しばらくベテランのボランティア秋田さんの授業を見学するように言われたのですが、秋田さんが文法を間違えて教えています。日本語教師の経験が長いあなたは、学習者がその文法を間違ったまま覚えてしまうことが心配です。あなたならどうしますか？



<p style="font-size: 2em; color: red;">A</p> <p>こっそりと秋田さんに間違いを伝える</p>	<p style="font-size: 2em; color: red;">B</p> <p>こっそりと学習者に正しい文法を教える</p>
---	--

1



「絶対 A だと思ったけど、
そう言われると私も B かも」

「B を試してみてもダメだったら、A にします」

「どっちかを選ばないといけないから B を出したけど、
A でも B でもなくて
こうしたいです」



「C 案だ！それ、いいね！」

ANADO ゲーム参加者からの感想

「まるでわたしたちの教室を見て書いたんじゃないか」という問いがあって、びっくりしました。（日本語教室ボランティア）

ゲームをしているうちに、地域日本語教育コーディネーターの役割について、分かってきた気がします。（地域日本語教育コーディネーター）

「あるある！」というものばかりで、ゲームをしながら参加者同士で話をすることでストレス解消になりました。プライベートでもしたいです。（日本語教育担当者）

目の前の関係者に対しては言いにくいことも、ゲームを通して間接的に伝えられるの
でいいなと思いました。（地域日本語教育コーディネーター）

行政、コーディネーター、学習者、ボランティア、教室代表者と様々な立場に立って考えることができるのがよかったです。（日本語教育担当者）

最初は絶対に A だと思っていたけど、他の参加者の話を聞いているうちに B の方がいいなと思えました。普段の活動ではじっくり他のボランティアの意見を聞くことはないので、とてもいい機会でした。（日本語教室ボランティア）

ぼんやりとしていた問題点が、ANADO によって明確化され、話し合いの糸口になったと感じました。（日本語ボランティア）

例題に対して A・B の答えがあり、自分の考えを知ることが出来ました。どちらが正しいということでもないので、他の人の考えも知ることができて良かったです。（日本語ボランティア）

回答の A・B が極論だなと感じました。しかしそれがゆえ A も B も「こうすれば…」
「この条件なら…」など深める材料となりました。（日本語教室運営者）

ANADO を通して、色々な意見があることが分かりました。相手の意見を尊重することが大切だと気がつきました。（日本語サポーター）

自分の意見を言う…少し緊張するシチュエーションのはずが、内容が身近なこともあり、知らないうちに夢中になっていました。（日本語ボランティア）

様々な課題があるけれど、それを解決するためにいろいろな立場になって考えることの大切さ（ANADOの主人公の立場になる）、何のためにこの教室があり、みなさんが参加し、学習者が集まってくるのか、活動の目的について、改めて考える機会になりました。（地域日本語教育コーディネーター）

ANADOを使った研修は講義型ではなく、皆で協力して作り上げていく形式でした。普段、別の教室の方々と接する機会は少ないので楽しかったですし、別の教室の雰囲気も垣間見る事が出来てとても良かったです。（日本語ボランティア）

ANADO カード活用団体からのメッセージ

フォローアップ講座などを企画する私は、いつも悩んでいました。参加者がしっかりと考え、対話をした結果、共通意識が持てるような講座はできないものだろうか。そんなときに出会ったのが、この『ANADO～あなたならどうする～』でした。

「自分だったら」という視点ではなく、「自分がカードの主人公だったら」で始まるANADOの第一歩は、参加者それぞれのビリーフや経歴の違いを軽く乗り越える一歩となり、課題に対する対話の中で共感し合い、次第に「いるいる!こういう人!」「よくある!」という声があちこちから聞こえ始めます。

対話が進む中で、参加者は自然に新しい解決案「C」にたどり着きます。主人公の悩みに寄り添えた充実感で、皆がなんとなく嬉しい気持ちになりながら、次のカード（課題）に進み、活動終了時には、「もう終わり?」「もうちょっと…」と名残惜しそうです。共通の目的を持った仲間として課題に取り組んだ満足感に浸りながら、ワイワイ感想を言い合っています。ANADOをやる前は、皆あんなに難しそう顔をして、シーンとしていたのに…

ANADOを体験し、「対話のコツ」をつかんだら、きっと皆さんの活動現場でのリアルな課題に対しても、対話の中で「C」を見つけることができるのではないのでしょうか。私はANADOを活用し、今後も仲間と課題に対して対話を続けていこうと思います。

（地域日本語教育コーディネーター）

おわりに (ANADO 作成協力者より)

ANADO をやると、『いろいろな人といろいろなことをたくさん話せた』という感想を多くもらいます。私自身、研修の講師をしていて、いい時間をつくれているなあと感じるものがとても多いです。ANADO は、いろいろな人たちが建設的な対話を行うことを支える、非常にすぐれたツールだと感じます。

「多様な人たちが対話的に関係をつくっていき、人々が相互に尊重できる共生社会を実現したい」。これが、ANADO を作成する際の根底にあった、作成者たちの「夢」でした。日本は人口減少局面に突入し、外国人労働者の受け入れが加速しています。それに伴って、地域の日本語教育への注目も高まっています。地域の日本語教育は、地域住民同士が対話を行い、関係性をつくっていく重要な場です。「日本語教育」ですから、なんらかの形で参加している人の日本語・コミュニケーションがよりよくなることは求められますが、日本語がよくなることはゴールではありません。人々がことばをかわし、関係性をつくり、信頼がつくりだされ、多様な人が共に生きることができる地域になっていくことが、最終的なゴールです。ANADO を使うことで、そのような地域づくりにつながる地域日本語教育のあり方について考えることができるようになります。

ANADO は、地域の日本語教育での実話を集め、それを事例として調整して書き起こした「あるある集」です。事例は、まず誰の立場で考えるのか提示されます。外国人学習者の立場、支援者の立場、行政職員の立場など、さまざまな立場から考える事例があります。そして、その事例を解決するために「A・B という究極の二択」が用意されており、「あなたならどうする」と問われます。グループ全員が同じ意見になることもありますし、バラバラになることもあります。どうしてその選択肢を選んだのかも、いろいろです。また、実は A でも B でもないという意見も出てきます。「あるある集」ですから、地域の日本語教育に携わっている参加者にとっては、私たちの活動でも同じようなことがあった、そのときはこんなふうにして…、といった経験談も豊富に出てきます。

地域の日本語教育をよりよくしていくために、自分たちの活動を改善するための話し合いとして ANADO のケースを使うことで、事例と適度な距離をとって考えることができるというメリットもあります。また、自分たちの活動で発生した事例を自分たちで新たな ANADO にしたり、外国人が直面する日本社会でのさまざまな出来事を事例化して、日本語教室の素材として使うなどの応用方法も考えられます。多くの人々が ANADO を手に取ってくださることで、地域日本語教育を通じた対話が進むことを願っています。

(武蔵野大学 グローバル学部 日本語コミュニケーション学科 教授 神吉宇一 氏)



『ANADO (2 版)』は文化庁「令和 6 年度地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業」
を活用し、北九州国際交流協会が作成したものです。

営利目的で再利用することを禁止します。

ANADO を用いたワークショップについてのご相談、講師派遣を行っています。
北九州国際交流協会までお気軽にお問い合わせください。

2013 年 11 月 初版 第 1 刷発行

2021 年 3 月 改訂 1 版 第 1 刷発行

2024 年 3 月 改訂 2 版 第 1 刷発行

編集・発行 公益財団法人北九州国際交流協会

作成：ANADO 作成チーム（公益財団法人北九州国際交流協会）

企画・初版：小野美穂 矢野花織

改訂 1 版：小野美穂 矢野花織 マクドナルド晶子 黒田知美

改訂 2 版：矢野花織 黒田知美

改訂 2 版協力：油川美和（Find Purpose Lab 代表 / 地域日本語教育コーディネーター）

協力：神吉宇一（武蔵野大学教授 / 文化庁地域日本語教育アドバイザー）

公益財団法人 北九州国際交流協会

〒806-0021 福岡県北九州市八幡西区黒崎三丁目 15-3 コムシティ 3 階

TEL 093-643-5931 FAX 093-643-6466 E-mail kia@kitaq-koryu.jp